令和6年度

第47回 栃木県少年の主張発表 県大会記念文集

主催　栃木県青少年育成県民会議
　　栃木県・栃木県教育委員会
　　独立行政法人 国立青少年教育振興機構
共催　栃木県更生保護女性連盟

目　　次

県大会の様子 …… 2
開会挨拶 …… 栃木県知事　福田　富一 …… 4
次　　第 …… 5

発表文
最優秀賞
心の土台を固めて　高根沢町立北高根沢中学校　３年　岡本　智尋 …… 6
優秀賞（発表順）
日々頂いている命を考える　宇都宮市立星が丘中学校　３年　蛯澤　奏太 …… 7
本当の豊かさ　鹿沼市立東中学校　３年　引敷林杏和 …… 8
自分らしく暮らせる社会へ　真岡市立山前中学校　３年　高崎　愛梨 …… 9
奨励賞（発表順）
光　茂木町立茂木中学校　３年　篠原　香音 …… 10
私のキャラ　栃木市立栃木南中学校　３年　山本　芽生 …… 11
カラフルな脳　宇都宮市立旭中学校　３年　島﨑　彩葉 …… 12
「私（わたし）だからできること」　佐野市立城東中学校　３年　新井　遙夏 …… 13
自分のままで　宇都宮市立若松原中学校　３年　盛田　陽斗 …… 14
つながりが迎える明日　日光市立東中学校　３年　金井そよか …… 15
オーケストラの奏でる音楽のごとく　佐野日本大学中等教育学校　３年　宮城　碧 …… 16
誰でも住みやすい世界を作るには　那須塩原市立黒磯中学校　３年　後藤　桃華 …… 17
未来を創る　那須町立那須中央中学校　３年　菅野　泰我 …… 18
蔵の街と僕の夢　栃木市立吹上中学校　３年　長　颯真 …… 19
母が教えてくれた「普通」　那須烏山市立烏山中学校　３年　滝田　帆香 …… 20
言葉の力とその一言　小山市立豊田中学校　３年　増田　杏 …… 21

結果発表・講評 …… 審査委員長　髙橋　重年 …… 22
司 会 者 感 想 …… 23
県 大 会 の 概 要 …… 24
今年度の実施状況 …… 26
これまでの県大会 …… 27
県大会歴代最優秀賞 …… 28
〔参考〕第46回少年の主張全国大会　内閣総理大臣賞 …… 29

※栃木県更生保護女性連盟から県大会発表者全員と高校生ボランティアに記念品として図書カードが贈呈されました。また、栃木県と包括連携協定を締結している大塚製薬株式会社からは、発表者と高校生ボランティア、宇都宮少年少女合唱団に商品の提供がありました。

県大会の様子

発表者受付の様子

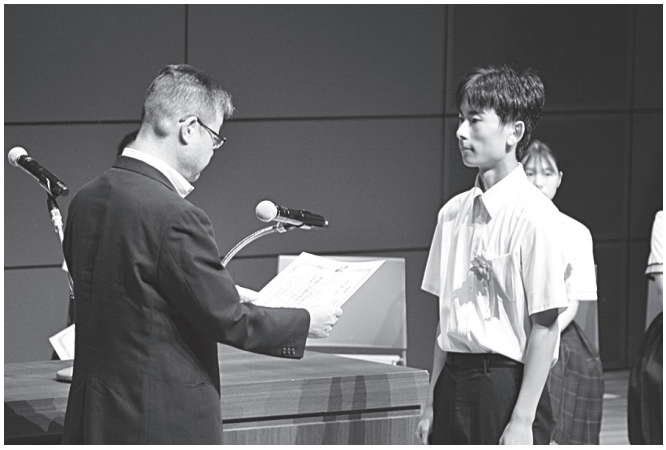
開会式・知事挨拶

司会者の高校生（左から鶴田一遙さん、宗像文夏さん、横塚彩芽さん）

ミニコンサート（宇都宮少年少女合唱団）

髙橋審査委員長による結果発表・講評

最優秀賞　岡本智尋さん
（高根沢町立北高根沢中学校）



優秀賞　蛯澤奏太さん
（宇都宮市立星が丘中学校）

優秀賞　引敷林杏和さん
（鹿沼市立東中学校）

優秀賞　高崎愛梨さん
（真岡市立山前中学校）

奨励賞授与（代表　篠原香音さん）

記念品授与（代表　山本芽生さん）

入賞者の皆さん

開　会　挨　拶

栃木県知事
福　田　富　一

第47回栃木県少年の主張発表県大会が、関係者の方々のお骨折りで今年もこうして開催ができまして、たいへんうれしく思っております。

本大会は、豊かな感性を持った中学生が、様々なテーマについて深く考え、自分の言葉で表現することで、若者の誇りと自主性を育み、社会の一員としての意識を高めることを目的として開催をしております。お陰様で47回目を迎えることになります。

本大会に先駆けて開催されました地区大会におきましては、県内の中学校から選び抜かれた代表が参加をし、すばらしい発表が繰り広げられたことと思います。

本日、このステージに立たれる皆さんは、日頃の練習の成果を存分に発揮しまして、各地区の代表として、自信と誇りを持って、堂々と発表してほしいと思います。

私も中学校弁論大会、あるいは日光地区合併前の今市市青年団青年の主張大会とか、何回か私もそういうところで発表して参りました。

歴史を振り返りますと昭和46年にこの大会は、塩谷地区からスタートをして、本日を迎えているということであります。先人の皆様方の御努力にも敬意を表したいと思います。

さて、今年はパリオリンピック・パラリンピックが開催されました。活躍した選手の中には、皆さんと同じ中学生、同世代の選手がたくさんいました。

彼らは、それぞれの競技でオリンピック・パラリンピックへの出場を目指して、その目標に向けて強い意志を持って取り組んだ人たちだと思います。

皆さんも発表の中で、自身の考えや将来に向けた目標、そしてそれに向かって進んでいくという強い意志を示してくれることを期待しております。

御来場の皆様方には、温かい声援を送っていただきますようよろしくお願いいたします。

結びに、御多忙中にもかかわらず御出席をいただきました御来賓の皆様方をはじめ、共催者としてお力添えをいただいております「栃木県更生保護女性連盟」の皆様、また本日審査をいただく皆様、そして熱心に御指導いただきました指導者の先生方など、本大会の開催に当たりまして御尽力いただきました多くの方々に心から感謝を申し上げて、挨拶といたします。

第47回栃木県少年の主張発表県大会　次第

令和６年９月21日㈯　栃木県総合文化センターサブホール
司　会　鶴田　一遙（栃木県立宇都宮女子高等学校１年）
　　宗像　文夏（栃木県立宇都宮女子高等学校１年）
　　横塚　彩芽（栃木県立佐野東高等学校１年）

１　開会式（13：00～13：10）
（１）主催者挨拶　　栃木県知事　福　田　富　一
（２）主催者・共催者・来賓・審査委員紹介

２　発表（13：15～15：00）（途中休憩10分）

３　宇都宮少年少女合唱団ミニコンサート（15：10～15：40）
審査委員会（15：10～16：00）

４　表彰式（16：00～16：30）
（１）審査結果発表・講評　　審査委員長　髙　橋　重　年
（２）表　彰

授与者	最優秀賞	栃木県生活文化スポーツ部長	中　村　和　史
	優秀賞	栃木県教育委員会教育次長	長　　裕　之
	奨励賞	栃木県青少年育成県民会議理事長	千金楽　　宏
	記念品	栃木県更生保護女性連盟会長	伏　木　ミサ子

最優秀賞

心の土台を固めて

高根沢町立北高根沢中学校　３年
岡　本　智　尋

「多様性を認める学校に、していきたいです。」昨年の生徒会立会演説会で、自分が言った、この言葉に、最近、違和感を持つようになりました。

私の学校では、数年前から学校のきまりが見直されるようになり、運動靴や靴下、下着の色も、白一色ではなくなりました。女子のスラックスの着用も認められています。

現在の生徒会役員である私たちは、見直す必要があると思うものや、守られていないきまりなどの洗い出しを進めているところです。

その話し合いの中で、ふと疑問に思ったことがありました。髪型や服装などは、多様性について考えていく必要があると思いますが私たちが社会生活を営む上で、当然守るべきルールやマナー、例えば、時間を守ることや挨拶や返事をするということまでもが、「多様性」という言葉で曖昧になってきているのではないかということです。できないことや苦手なことは無理にやらなくてもよいなど、「多様性」という言葉の解釈そのものが多様になり、あらゆる考えを容認してしまう「魔法のアイテム」として、浸透しつつあるのでないかと思うようになりました。

私は改めて「多様性」という言葉を辞書で調べてみました。そこには「いろいろな種類や傾向のものがあること。変化に富むこと。」と書いてありました。どこか曖昧で、はっきりとした定義がなく、使い方次第では、さまざまな形に変化してしまいそうな危うさを感じました。

小学校３年生のときのことです。新しく担任になった先生から、全員で守るように言われたことがあります。それは、宿題をきちんと出す、廊下を走らない、挨拶をする、けんかをしないなど、どれも小学校１年生の時に習うような基本的なルールばかりでした。でも、その頃の私たちは、そんな当たり前のことができていなかったのです。先生は私たちに、こう話してくださいました。

「自分の意見が正しかったとしても、信用されていなければ、その意見をだれも真剣に聞いてはくれないだろう。信頼される人間になるためには、普段の生活をきちんとしていこう。そして、自分の意見を胸を張って言えるようにしよう。」

この言葉は今でも心に残っています。そして多様性という言葉の軽さに違和感を覚えたのは、先生の言葉が、ずっと私の心の土台になっているからだということに気づきました。

ルールやマナーを守るということは社会生活を営む上での大きな基盤です。それは得意不得意や好き嫌いとは関係のないもので、私たちが共通して築きあげていくものだと思います。２年ほど前、カタールで行われたサッカーのワールドカップで、日本代表が使ったあとの整理整頓されたロッカールームや、ゴミ拾いをするサポーターの姿が海外メディアで賞賛されたことがありました。私たちが幼いころから学び、大切にしてきたことが外国でも実践されたこと、そして、それが高く評価されたことを誇りに思います。

多様性を認めるとは、いろいろな価値観を持つ人間同士が、自分の個性を互いに生かせるようにしていくことだと思います。でも、それは、共通の土台があるからこそ成り立つものではないでしょうか。ルールやマナーを守ること、周りへの感謝や相手を敬う気持ちをもつことがその土台を作るのだと思います。

私たちは、自分の考え方や生き方が否定されるのではないかと不安になることがあります。だからこそ、守るべきものは何なのか、変えなければいけないことは何なのか、本当に大切なことは何なのかを真剣に考え、確かめ合いながら、それぞれの心の土台を、揺るぎのない、頑丈なものにしていくことが重要なのではないでしょうか。

一人一人の、その取り組みこそが、多様性を認める社会の実現の第一歩であると私は思います。

優秀賞

日々頂いている命を考える

宇都宮市立星が丘中学校　３年
蛯　澤　奏　太

僕たちは生きていくうえで、多くの命を頂いています。今日、肉や卵を食べたという人も多いと思います。では、皆さんはこれらの動物がどのようにして育てられているのかということを考えたことはありますか。僕は今年の春、「サピエンス全史」という本の中で畜産の悲惨な現状を知り、衝撃を受けました。

僕が衝撃を受けた一節のタイトルは「ベルトコンベヤー上の命」。そこにはベルトコンベヤーに乗せられた多くのヒヨコたちの写真とともにこんな説明書きがありました。

「民間の孵化場でベルトコンベヤーに乗せられたヒヨコたち。オスのヒヨコと不完全なメスのヒヨコはベルトコンベヤーから降ろされ、ガス室で窒息死させられたり、自動シュレッダーに放り込まれたり、そのままゴミの中に投げ込まれ、潰されて死んだりする。このような孵化場では毎年何億羽ものヒヨコが死ぬ。」と。

僕は、読みながら体が凍りつく感覚を感じました。なぜだろう、ヒヨコだって人間と同じ命なのに……。僕は、疑問とともに強い憤りと悲しみを覚えました。今まで何も考えず、当たり前のように命を頂いていた自分の無知さを痛感し、その日から肉や卵を食べることが苦しくなりました。

現代の産業は価格の安さと効率の良さを重要視します。そのため、痛みや苦しみを感じる動物たちでさえも、まるでモノと同じ扱いを受けているのです。ヒヨコに限らず、牛や豚なども、生まれてからすぐに親から離され、向きすら変えることのできない狭い檻の中で一生を過ごし、殺されます。これらの動物にも人間と同じような感情や欲求があることは、すでに約70年前には心理学者であるハリー・ハーロウの実験で証明されているにも関わらず、日本では、約９割もの飼育場がこのような飼育方法を取っているのです。

また、もし動物たちに家畜伝染病が見つかれば、その飼育場のすべての動物が殺処分の対象となってしまいます。実際に公務員として豚の殺処分に参加したことがある父はこんな話をしていました。

「本当に心が痛んだ。獣医師さんが電気を流すとこの世の終わりのような悲鳴を上げながら、最後にはバタッと倒れてしまうんだよ。その叫びがずっと耳から離れなかった……。」

ニュースで何気なく聞いていた「殺処分」。考え方が一変しました。これも安全のためだと心に言い聞かせつつも、対策が足りなかったことで何千、何万頭もの命が無駄になるということはやはり心が痛むことです。「処分」という言い方もモノを捨てるような表現で僕は好きではありません。

僕は必死にインターネットで調べました。このような現状を変える方法はないのかと。そして、「アニマルウェルフェア」という言葉に出会いました。これは、家畜である動物たちが、ストレスなく健康的に生活できる飼育方法を目指す畜産のあり方のことです。僕は見つけた瞬間に「これだっ！」と思いました。

しかし、ある調査によると、日本人の約９割がこの言葉すら知りません。実際、僕の家族や身近な友達にも知っている人はいませんでした。この畜産のあり方を広めるにはどうすればいいか。そのためには、僕は三つ、大切なことがあると考えます。一つは共有すること。皆さん、ここまでの話の中で、心に響いたことはありますか。もし何か少しでも響いたことがあれば、身近な人に話してみてください。その小さな共有が少しずつ社会を変えるきっかけになると僕は考えます。そして二つ目が選ぶこと。アニマルウェルフェアが実現できている農場の商品には認証マークがあります。僕たち消費者がそのような商品を積極的に選ぶことで、より多くの農場がアニマルウェルフェアを目指そうと変わるはずです。消費者にも選ぶ責任があるのではないでしょうか。そして、僕が最も重要だと思うことが三つ目の食育です。先ほど、二つ目で選ぶことが大切だと言いましたが、アニマルウェルフェアを目指すとどうしてもコストがかかってしまい、選びにくくなってしまうという問題点があります。そこで、僕たちはお金の価値以上に、命の尊さに価値を見出していくことが必要なのではないでしょうか。食育から学べることはたくさんあります。その中で多くの人々が命を頂いていることのありがたさに気づくことが大切だと僕は考えます。

確かに、現代社会では産業の発達によって人々の生活は豊かになりました。しかしその陰で苦しめられ、無駄になっているたくさんの小さな命たちがいます。僕たちはその存在を忘れてはいけません。まずは、命について改めて考え直し、日々命を頂いていることに感謝していきませんか。

優秀賞

本当の豊かさ

鹿沼市立東中学校　３年
引敷林　杏　和

「私はなんて弱い人間なのだろう。」

中学２年生の夏、私は学校へ行けなくなった。自分にはないものをもっている友人をうらやましいと思い、何ももたない自分を価値がないと感じてしまった。そんな自分を周りがどう評価しているのか考えると、不安に襲われ、私は学校から逃げ続けた。学校を休むことで、誰とも関わらないで済むようになった私は、これで悩みから解放されたと思っていた。

しかし、私をさらに追い詰めたのはＳＮＳから得られる情報だった。みんなの楽しそうな投稿と今の自分を比べて、私は、みんなから必要とされていない存在なのだと感じ、不安と悲しみに押しつぶされそうになった。

そんな私が唯一外に出たのは、母がドライブに連れて行ってくれるときだった。不安で胸がいっぱいでいつもより言葉が少ない私に母はこう問いかけた。

「杏和、私たちは豊かだと思わない？」

と。それを聞いた私は、言葉の意味が理解できなかった。学校に行けていない今の私が豊かだとはどういうことなのか。もし、今の私が豊かだというなら、もっと笑顔で過ごしているはずだと感じ、怒りにも近い気持ちが込み上げてきた。どういう意味かと尋ねると母は、

「豊かさと聞いて何を思い浮かべる？」

と、私に問いかけたので、私は、自分の欲しいものや求める環境がそろうことだと答えた。すると母は、

「確かにそういう豊かさがあることも間違いではないけれど、杏和に見つめてほしいのは、今ある環境や自分自身、周りにいる人のことなんだよね。」

と言った。私はそこから、「豊かさとは何だろう。」と考えた。お金があって欲しいものが買えれば本当に豊かなのか。無くなったら困る物は何なのか。何があれば、人生を豊かだと思えるのか。自分を見つめ直していった。そうしていくうちに、ニュースで見た路上でうずくまるように生活をするアフリカの子ども達のことを思い出した。そのとき、自分には健康な身体があること。通える学校もあり自分次第で多くのことを学べる環境があるということに気付いた。また、自分の悩みに寄り添ってくれる母の存在に気付いた。先生も私が困ったときに、声を掛けてくれていた。見えなくなっていただけで、自分は恵まれた環境にあり、支えてくれる人達がいたことに気付いたのだ。そのとき、心が温かくなるのを感じた。それと同時に、もう私は豊かである。そう思えた。

私は初め、自分の欲が叶うことが豊かだと勘違いしていた。欲しいものは無限に出てきたし、たくさんの友達に囲まれ、自分の欲しい服や靴を手に入れている人達を羨ましく思った。どれだけ努力をしても全てを手に入れることはできず、そんな自分を周りと比べて劣っていると感じてしまった。しかし、母が私に伝えたかった本当の豊かさとは、自分の心の中にある身近な幸せに気付くことだったのだ。自分の幸せは友人や画面の向こうの人と比べなくてもいいこと。自分が幸せだと感じることを大切にし、周りの意見に左右されないこと。生まれてきて、命があるだけで十分な存在価値であることに気付いたのだ。

そう思えた私は、毎日当たり前に過ごしている日常を、一つ一つ大切に過ごすようになった。自分が何を幸せだと感じるのか確認し、日常の中の小さな幸せに目を向けるように努力した。こうして、私の表情、言葉遣い、行動が変わり始めた。笑顔が増え、幸せだと感じる時間も増えた。すると私の見ている外側の景色も変わり始めたのだ。まるで白黒の世界に鮮やかな色が付いていくかのようだった。学校にも登校でき、友人と楽しく過ごせるようになった。

近年ＳＮＳの普及に伴い、私たちは身近な人だけでなく、世界中の人の幸せと自分の幸せを比べるようになった。しかし、周りの人より幸せになりたいと思う気持ちは自分自身を追い詰め、不幸にしていくと思う。私達はもうすでに豊かである。自分だけの身近な幸せに気付く、豊かな心をもとう。豊かな心は、豊かな人生をつくるのだ。

優秀賞

自分らしく暮らせる社会へ

真岡市立山前中学校　３年
高　崎　愛　梨

「認知症」。この言葉を聞いて、皆さんはどんなイメージをもちますか。

私の祖母は若年性認知症でした。私が物心ついたときには、一人で何もできなくなっており、施設で過ごしていました。次第に笑顔を見せることも少なくなり、自分で排泄をすることもできなくなってしまいました。面会の度、そんな祖母を見て、「認知症ってなんて残酷なのだろう。」と思っていました。

私が小学３年生のときのことです。テレビで「注文をまちがえる料理店」という特集番組が放送されていました。その料理店では、認知症の人が店員として飲み物や食べ物を提供しています。注文したものと違ったものが提供されても、お客さんはその間違いを、温かく受け入れ、認知症の人たちは笑顔で働いています。これまで考えていた「認知症の人」と全く違う姿を見て、衝撃を受けました。

そんな私の様子を見た母は、「宇都宮にある認知症カフェに行ってみない？」と誘ってくれました。私は勇気を出して行ってみることにしました。

古い石蔵の建物の中にあるそのカフェでは、テレビで見た番組と同様に、認知症の人が楽しそうに飲み物や食べ物をお客さんに運んだり、食器を洗ったりしていました。そこで、私は「しーちゃん」と呼ばれている若年性認知症の方と出会いました。しーちゃんは、とびきり明るい人柄で、周りには自然と多くの人が集まっていました。

しーちゃんは、お茶を運ぼうとするとき、認知症特有の記憶障害から、どのお客さんに出せばいいのかわからなくなり、不安そうに立ち止まることがあります。気付いた私が代わりに運ぼうとしたところ、その様子を見ていたカフェのスタッフが「あそこのお客さんだよ。」としーちゃんに声をかけました。一瞬で笑顔に戻り「いらっしゃいませ。」とお茶を運びます。

私が、「代わりにやってあげよう。」としたことは、しーちゃんの「できること」を一方的に奪う行為であるということに気付きました。

しーちゃんは、「認知症になって悔しいと思うことはあるよ。でも、私は私。なにも変わってない。変わっちゃうのは、周りの人。認知症になっちゃったけど、たった一度の人生だから、笑って生きなきゃ損だよね。」と笑顔で話していました。そんなしーちゃんは輝いて見えました。

しーちゃんが、明るく過ごしていたのは、自分の可能性をあきらめなかったからだと思います。そして、石蔵カフェの皆がありのままのしーちゃんを受け入れていたからです。徐々に認知症の症状が進んだしーちゃんは、とうとう施設に入所することになりました。カフェで過ごす最後の日、「私のこと、忘れないでね。」と、涙を浮かべながら言った、しーちゃんの姿を私は決して忘れません。

現在の日本は高齢化が進み、それに伴い、認知症と診断される人も増加しています。2025年には、65歳以上の約５人に１人が認知症になると予測されています。一人一人がこのことを自分事として捉え、互いに支え合うことが必要なのです。「変わっちゃうのは、周りの人」というしーちゃんの言葉にあったような対応ではなく、その人のできることに目を向け、サポートすることが大切だと思います。

石蔵カフェでの体験により、私の考え方は変わりました。周りの人のサポートや理解があれば、誰もがその人らしく生きることができるのではないでしょうか。私はこれからも、石蔵カフェに通い、人と人とのつながりの温かさを感じながら、誰もが自分らしく暮らせる社会作りに向けて、自分にできることを考えていきたいです。

奨励賞

光

茂木町立茂木中学校　３年
篠　原　香　音

「あなたの性別はなんですか。」アンケート用紙でよく見かける質問です。私はこの質問、とても悩んでしまいます。「悩む必要あるの？」と思った人も多いと思います。なぜ、悩むのかというと・・・私の性がＬＧＢＴＱ＋のノンバイナリーに分類されるからです。そんな私は、いろいろな生きづらさを日々感じています。

まず、日常生活の悩みです。学校の先生に「自分の性別に合った一人称を使いなさい」と言われたことがあります。ですが、どの一人称を使っても、「自分らしくない」と感じ、悩んだ末、あまり一人称をつけずに話すようになりました。また、ある授業では、オカマ・ホモなどの差別用語が飛び交っていました。しかし、先生はそれを止めようとせず、クラスメイトも平然とその会話をし続けました。自分の存在を否定されているような気がして、「憤り」を感じました。たった一人でも理解してくれる人がいたら・・・と、一人の友人にカミングアウトをしました。すると、その友人に、

「オカマとかってこと？ごめん理解できない。無理。キモい。」

と吐き捨てられてしまい、気づけば自分の性に関する噂が広まっていました。当時は長年の付き合いだった友人に一瞬にして裏切られてしまい、人と接することが怖くなってしまいました。毎晩思い出しては、体調を崩す日々が続きました。まるで、暗闇の中に一人たたずんでいるような感覚でした。しかし、元気がない私を見て、

「香音は香音だから何があろうと変わらないよ。」

と肯定してくれる友人もいました。理解することは難しいはずなのに精一杯私を支えようとしてくれている友人に、涙が止まりませんでした。

想像してみてください。とても仲が良く長い付き合いの友人がカミングアウトしてきたら？私の友人がそうだったように肯定してあげられますか。大切な大切な家族がカミングアウトしてきたら？これからも変わらず大切にしてあげられますか。今あなたの好きな人がＬＧＢＴＱ＋だったら？一人の人間として、変わらず好きでいられますか。どうですか？いざ言われたときに、否定したり、周りに言いふらしたりしませんか？「私には関係ない」「周りにはいない」と思ったそこのあなた！ＬＧＢＴＱ＋の人は、名字でいう佐藤さん、鈴木さん、田中さんの合計に匹敵すると言われています。考えてみてください。あなたの周りに佐藤さんや鈴木さん、田中さんはいませんか。そう考えると、ＬＧＢＴＱ＋の人はあなたの周りに本当にいないのでしょうか。あなたには本当に関係のないことなのでしょうか。ちなみに「同性パートナーシップ制度」を導入する自治体が増えるなど、社会は変わりつつあります。しかし、私たちの生きづらさは、制度の充実だけで改善されるものではありません。

では、どうすればよいのでしょう。そこで、私たちの生きる未来に望むことは、「全員が認められ、生きやすくなる」ことです。そのために私は、これから出会う人全員に偏見をもたずに接します。ＬＧＢＴＱ＋だけのことではなく、国籍、肌の色、障害や病気、苦手なこと、できないこと。そのすべてが認められ、どれも「自分らしさ」と言えたらどれだけ幸せなことでしょう。そう簡単なことではないと分かっています。ですが、今こそ変わるときです。みなさん！私と一緒に、素敵な世界を創りませんか。少しずつでもよいのです。明日からと言わず、今この瞬間から、いろいろな自分らしさがあるということを、「当たり前」で「素敵なこと」という意識に変えてください。私が、友人のひとことで毎日が明るくなったように、みなさん一人一人の変化の積み重ねで、世界は幸せに溢れていくと思います。光が当たるところがある限り影はなくならないかもしれません。けれど真っ暗なところより、少し明るいだけで人生を歩くことは楽になります。もしあなたの周りの人が暗闇の中で悩んでいるなら、そっと足元を照らしてあげられるような存在になってみてはどうですか。私を含め、すべての人が生きやすい未来になることを願っています。

奨励賞

私のキャラ

栃木市立栃木南中学校　３年
山　本　芽　生

小学校のころ、周りの人がスマホを持ち始めると、遊び方が変わってきました。スマホを持ち寄って話すばかりなのです。ある日友達に遊びに誘われました。しかし、スマホを持っていない私は、なじめませんでした。とてつもない疎外感と自己嫌悪で心が蝕まれました。とても怖かっです。でも、すぐに帰ったらきっと母が心配します。家族を心配させたくありませんでした。だから、意を決して、ある３人グループのところへ行くと、３人はTikTokの性格診断動画を見ていました。

「めいめいはこれっぽくない？真面目キャラ」

「たしかに、スマホ持ってない優等生だもんね～」

衝撃でした。真面目とか優等生とかそういう線引きをされ、輪に入れない苦しさが募りました。

真面目？優等生？私は他の人から見えたキャラに苦しめられました。優等生という名の皮肉が嫌で、何度もばかになろうとしました。でもそのたびに感じる自分とのずれ。どんなに頑張ってもそんな自分を好きになれません。だから私は、本来の自分と対話し本当に自分が好きなことを見つけることにしました。

みんながスマホを使っている間、絵を描き、本を読みました。絵を描くことが好きになったおかげで、６年生の図工の絵画で金賞に選ばれ、自分を表現できる楽しさを知りました。本を読むことが好きになったおかげで、人には多様な価値観があると理解できるようになりました。一人一人違って当たり前だと気づきました。すると、数えるほどしかない分類の性格診断に傷付いていた心がすっと軽くなりました。私は○○キャラではない。私は私です。

私は、私の学校、そして学年の仲間が大好きです。まっすぐで元気だから、にぎやかすぎて先生によく注意されてしまいます。けれど、一人一人が本当に魅力的なのです。そんな学年の役に立ちたいと思い、学年の生活向上委員、修学旅行実行委員長になりました。自分にできることを精一杯考え、改善点を話し合い、全体に呼び掛けています。協力してくれる仲間もたくさんできました。一人では思いつかないアイディアも飛び出しました。学年でのプチ運動会もその一つです。種目やルールを決め、学級で練習を重ねました。声をかけ盛り上げる人、こつこつ練習する人、一人一人の個性がまぶしかったです。みんなの楽しげな笑顔はとても輝いていました。心の底からやってよかったと思えました。

人はだれでもその時の選択と経験の積み重ねでできています。私はまだ14年しか生きていませんが、たくさんのことを周囲から学び、たくさんの価値観を本の中から学ぶことができました。そして、成功と失敗を繰り返しながら今の自分をつくってきました。過去が織りなす未来の自分は一つの言葉では言い表せない奥深さがあると信じています。だから、人は数えるほどしかない分類の性格診断で決めつけられるはずがないと思います。

「あなたのキャラなんですか？」

私のキャラは、山本芽生です。

奨励賞

カラフルな脳

宇都宮市立旭中学校　３年
島　﨑　彩　葉

実年齢は20歳、でも精神年齢は２歳。皆さんは、そんな人を想像できますか。

私には、自閉症スペクトラムという障がいを持つ兄がいます。自閉症スペクトラムは、脳に先天的な障がいをもつ、いわゆる発達障がいです。外見だけで、障がいの有無を確認することはできません。症状は人によって様々です。兄の場合、人との会話が難しい、大きな音を嫌う、落ち着きがない、という症状があり、挙動不審に見えてしまいます。

そんな兄と生活していると、周りの人たちからの視線に、心をえぐられることがあります。以前、家族でデパートへ出かけた時のことです。店内放送が流れた時、機械のような高い声のアナウンスが、兄をパニックに陥らせました。耳を塞ぎ、飛び跳ねたり走り回ったりし始めました。その時の周囲の視線は、とても冷たいものでした。睨むようにこちらを見てきたり、笑みを浮かべながら指をさしてきたりする人もいました。兄の行動はそう簡単には理解してもらえない。わかっていても、悲しみや虚しさ、苛立ちが募りました。

私は、そんな経験から、目に見えない障がいを持つ方々への理解を深めてほしい、知ってほしいと考えるようになりました。外見からは気付かれにくい障がいは、周囲の人からの理解を得にくく、助けを求めることが困難です。だからこそ、人を見た目だけで判断してはいけないことを忘れないでほしいです。

また、脳の障がいをネガティブなものと捉えないでほしいです。兄は、絵を描くことが得意なのですが、その絵は非常に独創的です。角ばったものを丸く書いたり、私には思い付かないような色と色を組み合わせたり…。型にはまることのない、豊かな発想や独創性のある絵は、他人とは異なる個性をもつ、兄にしか描けないものだと思います。そのカラフルな絵からは、兄の脳が私たちよりもずっと柔軟で独創性をもつ、個性の光る「カラフルな脳」であることを教えてくれます。

そして、さらにもう一つ知ってほしいこと、それは、悩みや生きにくさを抱えているのは、実際に障がいを抱える人だけではないということです。私のように、病気や障がいの兄弟姉妹がいる人を『きょうだい児』といいます。きょうだい児の私には、みんなの前で気軽に家族の話ができないという大きな悩みがあります。兄の話をすることで、「いろはも障がい者なの？」「障がいって遺伝するんでしょ？」と、知識のなさゆえに心無い言葉をかけられることがあります。現代社会では、病気や障がいを持つ人達の悩みに寄り添おうとする取組は、年々広がってきているように感じます。しかし、きょうだい児の悩みに寄り添おうとする考え方は、まだまだ浸透していません。病気や障がいへと同じくらい、きょうだい児への理解が深まるべきです。

以前までの私は、兄についてこんなにも大勢の人の前で話すことなんてできませんでした。偏見の目で見られることが怖かったからです。しかし、生きにくさを抱えている兄のような存在を「カラフルな脳」を持つ人としてポジティブに捉えてほしい、私のようなきょうだい児の生きにくさを理解してもらいたい、という強い思いが背中を押してくれました。今後も、勇気をもって自分の思いを口にすることで、生きにくさを抱える人に寄り添っていきたいと思います。

最後に、兄に伝えたい思いがあります。それは感謝の気持ちです。支援を必要とする兄の周りには、正しい知識を持って優しく接してくださる方々が大勢います。それを近くで見て、人に優しく接することがどれほどの幸せを生むのか、身を持って感じることができました。そして、兄と同じ障がいを抱える人、兄をサポートしてくださる人、私と同じきょうだい児の人、兄が健常者なら出会えなかった沢山の人に出会えました。これらすべてが兄のおかげといえるでしょう。兄の「カラフルな脳」は、私の生き方をも、カラフルに彩ってくれています。

お兄ちゃん、ありがとう。

奨励賞

「私（わたし）だからできること」

佐野市立城東中学校　３年
新　井　遙　夏

「ウェルビーイングな社会を目指そう」

最近耳にする機会が増えてきた言葉です。ウェルビーイングとは、心身と社会的な健康を意味する言葉です。満足した生活を送ることができている状態、充実した状態など多面的な幸せを表す言葉です。まずは自分が今、楽しいと思えること。そして家族や仲間、友達の幸せを願えること。最後にクラスや学校、地域、さらにはこの世界を良くしていきたいと考えることでウェルビーイングな社会になっていくのだと思います。

私がそう考えるようになったのは、私の友達のＡさんの存在があったからです。私の通う中学校には、日本語指導教室があり、多くの外国人が在籍しています。私が１年生のとき、隣のクラスにフィリピンからＡさんが転校してきました。Ａさんは、全く日本語が話せず、そのときは廊下ですれ違っても、特に何も話をしませんでした。２年生になって、私とＡさんは同じクラスになりました。Ａさんは、まだ片言ながらも日本語で私に話しかけてくれました。次第に私たちは打ち解け合い、友達になりました。Ａさんは私と話すために、「この言葉は日本語でどうやって言うの？」と聞いてきたり、タブレットの翻訳機能を使ったりと、日本語の勉強を熱心に頑張っていました。Ａさんは相手のことを理解しようとして、私の他にもクラスメイトにたくさん話しかけていました。そんな努力家のＡさんの周りには、いつもたくさんの友達がいて、みんなからも慕われる存在となりました。２年生が終わる頃、Ａさんは友達と日本語でスムーズに話をしていました。たった１年で日本語を話せるようになった努力家のＡさんを私はとても尊敬していますし、大好きな友達です。

私は２歳のときから３年間、父の仕事の関係でイタリアに住んでいたことがあります。幼稚園に入ることになり、私は慣れない環境と言葉になかなか馴染めず、母が幼稚園に迎えに行くと毎日泣いていた日々が半年間続いたそうです。周りの人が、私のことをとても心配してくれていました。そんな不安な気持ちの私を助けてくれたのは、幼稚園の先生方や、様々な国から来ている幼稚園の友達でした。私はイタリアで、人の温かさに触れたことで、不安や心配が少しずつ和らいでいきました。彼らは、私を日本人だからといって差別することなく、一人の人間として見てくれました。そんな経験から、私の近くで頑張っているＡさんを見ると、幼かった頃の自分と少し重なって見えました。Ａさんも初めて日本に来て、日本語が分からず、日本の生活の大変さを知り、不安を感じたそうです。外国で住む大変さが分かるからこそ、自分も周りの人にそうしてもらったように、自分のそばにいる外国人の友達を一人の人間として大切にしたいと心から思います。

最上級生となった私は、生徒会長になりました。演説でのキーワードは「アップ」です。この学校をバージョンアップ、ブラッシュアップしたいと思ったからです。私は今でも、イタリアに住んでいたときのことを思い出すことがあります。思い出すのは、友達との楽しい思い出ばかりです。私は今の城東中学校に通っている外国人の子も、いつか中学校での出来事を思い返したときに「城東中学校で良かった。」と思ってもらいたいです。そのために生徒会長の私がやりたいことの一つに、国際理解を深める活動があります。全校集会などで、外国人の友達が自分の国の文化や習慣について紹介をする活動です。外国の文化を知ることで、きっと相手の良さを知ることにもつながると思うのです。

「多様性」と言われている今の社会で、相手の良さを認めることは、ウェルビーイングな社会に必要不可欠なことだと思います。個人個人がウェルビーイングな状態になれば、社会全体もウェルビーイングな世界になると思います。生徒会長の私ができること、それは、一人一人がウェルビーイングな学校にしていくことです。そのためにも今の学校をバージョンアップ、ブラッシュアップしていきます。

奨励賞

自分のままで

宇都宮市立若松原中学校　３年
盛　田　陽　斗

「もーりーはもーりーでいいんだよ。」

この言葉は私が中学１年生の時の担任の先生が言ってくれた言葉です。私はこの言葉を心から大切にしています。なぜならその頃、自分の性別について悩んでいたからです。

小学校の３年生までは男女仲良く、という雰囲気でした。ところが、４年生を過ぎた頃から、徐々に、徐々に男子と女子の距離が広がっていったのです。私はどこにいればいいのかと悩みましたが、やはり一緒にいて楽しい、女子の友達と仲良くしていました。

中学校に上がると、当然のように男子、女子、それぞれのグループができていきました。私と同じ小学校の生徒は少数でしたが、話の合う女子と供に行動していました。

間もなく、宿泊行事がありました。班分けの日が近づくにつれて、不安が募りました。男子と同じ部屋で、大丈夫だろうか。そもそも、班には入れるのだろうか。男子だけの体育の授業も、上手にグループやペアが作れないのに。休み時間に、仲の良い女子と話しているだけで、「きもい」などという声が聞こえ、私の心をえぐりました。そんなとき、担任の先生が、かけてくれたのが、あの言葉です。宿泊行事は不安や嫌なこともあったけれど、何とか終わりました。

この先、自分は、どれだけこんな思いをするのだろうか。今の気持ちが、将来は変わることもあるのだろうか。自分に問いかける毎日でした。

友達に、同じ悩みを持っていた子がいました。その友達を通し、私と同じように、ＬＧＢＴＱに悩んでいる人がたくさんいることを知りました。日本での割合は約8.9パーセント、11人に１人いる計算になります。

世界では、多くの国がこの問題に取り組んでいます。その中でもオランダは2001年に同性婚の法律が施行され、次いでアメリカも、2015年には全ての州で同性婚が合法化されています。日本でも、近年、各自治体でパートナーシップ証明を行っています。2024年７月現在、460余りの自治体が導入しているそうです。

制度や法律は整いつつある世の中ですが、自由に生き生きと自分の性を語れる人は、まだ少ない現状です。

今年私は３年生となり、再び宿泊行事に参加しました。１年生の時のような不安は、もちろんありましたが、いろいろなことがなんとなくすんなりと終わったように思います。何故だろう。そういえば、周りの皆が話しかけてくれて嬉しかった。もしかして、自分のことを周りが分かってくれるようになってきていて、居心地が良かったのかもしれません。私は、私を性別関係なく受け入れてもらえるのが、何よりも嬉しいのです。

１年の時の自分は、周囲に理解されず、理解されようともせず、ただ、怖がっていました。不安になっていました。でも、友達が増えていくにつれて、自分のことを分かってくれる人も増えていきました。「理解」、これこそが、生きやすさの源なのではないでしょうか。人と人が理解し合うためには、相手のことを知ること。知るためには対話をすること。対話するためにはまず、声を掛けること。

これから学校や社会で、そのことで悩んでいる人がいたら、私は声を掛け、話をし、その人を理解していきたいと思います。一人一人が、何事にもとらわれずに、ありのままの個性で生きる、誰もが生き生きと自由に、自分のことを語ることができる、そんな生きやすい世界を自分から作っていきたいと強く思っています。国の制度や法律と併せて、一人一人ができることを、まず自分から、行動していきたいです。誰もが、自分は、自分のままでいいんですから。

奨励賞

つながりが迎える明日

日光市立東中学校　３年
金　井　そよか

私がアメリカで見た光景は衝撃でした。オレゴン州のポートランドという街。そこには私が初めて見る存在、ホームレスがいたるところにいました。公園にはボロボロの服を着て、壊れたサンダルを履いた人。ゴミ箱を見て回り、食べ物を求める歯のない人。「お金をくれ」と手を差し出してくる汚れた髪の毛の人。最も衝撃を受けたのは、冷たい雨の中、道の真ん中でうずくまりながら、うめき声を上げている女性を見た時です。そんな人が目の前にいるのに、人々は何もなかったかのように通りすぎていくのです。そして、私もその中の一人でした。恐怖が勝り、何もすることができませんでした。

私がこうした状況にこんなにも衝撃を受けたのは、自分が見てきた世界の当たり前と、アメリカでの当たり前があまりにも異なっていたからです。ここは別世界だ。そう感じました。

この体験をきっかけに、私はホームレスという問題について関心をもつようになりました。そして、アメリカで見た受け入れ難い世界が、日本にもあることを知りました。厚生労働省の調査によると、日本のホームレスは、令和６年１月の時点で約2,800人。屋根もない場所で生活している人が、身近に存在していることに驚きを隠せませんでした。

では、なぜホームレスになってしまうのでしょうか。原因は、失業、病気やケガ、家族関係など様々です。ただ、共通していえることは、何か問題が起こったときに、頼れる人や場所、機会がなかったということです。つまり、他者とのつながりを失い、「孤立」しているのです。

一般的にホームレスとは、「公園、駅舎、河川、道路などの施設を起居の場とし、住居を持たない人」のことを指します。しかし、本当にそれだけでしょうか。住居さえあれば、ホームレスにはならないのでしょうか。私には、誰ともつながりがなく、孤立している状態であることが、一番の問題であるように思えてなりません。

ホームレスの「ホーム」とは、いわゆる建物としての家ではなく、心の居場所という意味なのではないでしょうか。他者とのつながりを感じられる環境によって居場所は作られているのだと私は考えます。

私の父は、そんな「居場所」を作る仕事をしています。子供が思いきり遊べる場所を作ったり、日常生活ではできない体験をする機会を設けたりする活動です。そこに参加する子供達には、家庭環境に課題を抱えた子もいます。私も父の活動に参加することがありますが、何かをやり遂げたあとの子供達の笑顔や、それを後押しした大人の清々しい表情を見ると、ここは心の居場所なのだと感じます。父は、子供から大人まで、全ての人にとってのホーム、居場所を作っているのです。

私は父に、居場所を作るために大切なことは何か聞きました。父は「味わった感動や悔しさ、その感情を共有できる存在が必要だ」と答えました。何かをやり遂げた時に、「すごい」と言ってくれる人がいれば、自信を得られる。そして、その存在が、居場所になる。また、子供と関わるスタッフの人たちに対しても、こうあるべきだと型にはめずに、一人一人の個性を生かして働いてほしいと父は語りました。きっと、父の活動に加わる人たちは、何かあれば父を、仲間を頼るでしょう。ここに居れば、どんなに困難を抱えていても、社会から孤立することはありません。

私たち一人一人が、誰かのホームになれば、他者とのつながりを失い、孤立する人を減らすことができるのです。心の居場所を作るためには、心や言葉で相手とつながり、感情を共有できる関係を築くことが必要です。もし、孤立している人、孤立しそうな人に出会ったら、声を掛けて手を差し伸べられる人に、私はなりたいです。

人が生きるために、つながりは必要です。誰一人取り残さず、人と人がつながって生きていれば、そこにホームが生まれます。ホームレスを直接救うことは今は難しくても、孤独を生み出す社会を変えたい、そう思っています。皆さんも誰かにとってのホームになって、温かい明日を迎えてみませんか。

奨励賞

オーケストラの奏でる音楽のごとく

佐野日本大学中等教育学校　３年
宮　城　　碧

「日本は146か国中118位」

これは何のランキングだろう。出生率、それとも食料自給率だろうか。このランキング、実は日本のジェンダーギャップ指数を表している。ジェンダーギャップとは、性差によって政治参加や教育などに生じる格差や不平等のことだ。このランキングから分かるように、日本では性別による固定観念からさまざまな問題が起こっているのではないかと考えられる。私たちは、この現状を変えていくべきなのではないだろうか。私は、身近な人がジェンダー問題を抱えているからこそ、真剣に向き合わねばならないと感じている。

「実は私、男なんだ。」

小学６年生のある日、私の友達は学年集会でこの言葉を学年全員に伝えた。これを聞いたとき、衝撃が走った。なぜなら、私たちは今までこの子を女性だと思っていたからだ。この子は、小学生になる前から身体的性別と心理的性別が違い、悩みを抱えていた。そして小学校では、女性としての学校生活を送っていた。そのため、私たちはみんな、この子を身体的にも女性だと思っていたのだ。この子自身もカミングアウトには大きな不安を抱えていただろう。しかし、私たちの学年は、誰一人としてこの子との間に心の壁を作ることはなかった。また、この子は今まで気を遣っていた些細なことから解放され、気持ちの部分で大きな安心を得られたと思う。私たちは、ただ、ありのままのこの子を受け入れ、より深い友情を得ることができた。

ＬＧＢＴＱの問題を抱えている人たちがカミングアウトをしている割合は２割程度と言われている。彼らはなぜカミングアウトに不安を覚えるのだろうか。笑われるから、今までの人間関係が崩れてしまうから、そんな悩みを抱えているのではないだろうか。

誰がどのように生きようと、それは一人一人の個性であり、尊重されるべきものだ。けれども、現実の社会ではどうか。今でも、性別による固定的役割分担がされている。無意識の思い込みは、職業や家庭などあらゆる場面に存在している。例えば、「消防士になりたい」という子どもの願い。皆さんはこの子の性別を男性だと想像してはいないか。消防士は男性がなるものという固定観念に囚われてはいないか。「男だから」「女だから」などの言葉は、現在減ってきているが、今でもこの考え方に縛られている人がいることは紛れもない事実だ。性を限定した考え方を変えていくことが、今の日本の課題ではないか。

なぜこのような固定された考え方が定着してしまうのだろうか。私は、歴史が長い国は固定観念がより強いと考える。古くからの考えが途切れることなく現在も受け継がれているからだ。これを変えるのは容易なことではない。だからこそみんなが意識的に変えていかなくてはならないのだ。では、ジェンダーギャップランキングが118位の日本に根付くこの固定観念が、自然と消えることがあるだろうか。いや、このまま何もしなければ、変わらず続いてしまうだろう。この現状を打開するには教育の力が必要だ。多種多様な文化を取り入れた教材をもっと用いるべきだと思う。自分と違う意見を聞く耳を持ち、互いを認め合っていくことが多様な人々を受け入れるうえでは必要だからだ。これを養うことにより、ジェンダーの意識改革や、教育の質の向上に繋がるはずだ。そして私たちが今からできること、それは、身近なところから固定観念を取り除いていくことだ。この行動が社会を変えていく第一歩になり、多様性に寛容な社会へと向かっていくのだ。

一人一人が異なる楽器で、鮮やかな音色を奏でながら、美しい音楽を生み出すオーケストラのように、この社会をひとつにまとめ上げていこう。

奨励賞

誰でも住みやすい世界を作るには

那須塩原市立黒磯中学校　３年
後　藤　桃　華

「どうしてこんなに健常者と違うところが多くあるんだろう。」
かかるお金、日常生活で感じる家族への気持ち、出かけられる場所、他にもたくさんありますが、私の目の前には、健常者とは違う景色が広がっています。そして、私と同じ景色を見ている人は世界中にたくさんいて、きっとその人たちも、障がいについて様々な思いを胸に抱いて生活しているはずです。

私の妹は、脳性麻痺により、発達障がいを身体に抱えています。妹は歩いたり喋ったりすることができないので、車椅子に似たバギーを作り、おむつを買わなくてはいけません。それによって健常者にはかからないお金が多くかかってしまいます。しかし、母は妹のことがあるので決まった仕事に就くことができません。また、いろいろな事情から、私の家庭には父がいません。だから、国や市から出る支援金を使用し、祖父母に支えてもらいながら生活をしています。支援金が出ているなら何も困らないじゃん、と思う人もいると思います。しかし、支援金の額は決まっていて、その額を超える分は実費で払わないといけません。車で使うシートなどへの補助が出ていますが、それ以上にお金をかけなければならないのが現実です。さらに、移動に必要なバギーなど、特注で作らなくてはならないものがいくつもあります。そして、せっかく作っても、体が成長していくので数年で作り変えなくてはいけません。他にも日常生活で健常者には必要ないけれど、障がい者には必要なものが多くあり、金銭面で生活に支障が出ることだってあります。支援をしてくれているのはとても助かるけれど、それでは足りないことの方が多いのが現実です。この状況を多くの人に知ってもらうことで、少しでも補助制度が手厚くなり、将来、障がい者だから金銭的に生活しづらいという人がいなくなってほしい。私はそう願います。

お金のことは将来、改善される可能性があるけれど、国や自治体ではどうにもできないことがあります。それは、どうしても私が友達の兄弟を羨ましく思ってしまうことです。羨ましく思ってはいけないことは分かっているけど、その気持ちを感じずにいられないときがあります。２歳違いの妹と、今頃同じ中学校にいて、学校で会ったときに手を振ったり、恋バナしたり、買い物に２人で行ったり。友達の兄弟喧嘩を見たり聞いたりすると、羨ましく思ってしまうことがあります。どうすることもできない気持ちです。でも、このことから障がい者って本人も家族もやっぱり可哀そうだと思ってほしくはないです。障がい者の妹がいるからこそ健常者の家族での考え方よりも障がいについての問題点も身近に考え、差別することがなく人と接することができます。私が誰に対しても優しくできるのも妹のおかげだと思っています。

今の社会は、家族全員で出かけられる場所が限られています。障がい者用トイレはあるか、通路は広いか、段差はないか、エレベーターはあるかなど、確認するところがたくさんあります。行きたいところに家族全員で行くことがなかなかできません。全て確認してからでないと出かけられないので、調べるだけで行く前に疲れてしまうことすらあります。結果、出かける場所が同じになってしまい、家族で本当は行きたかった場所に行くことができないということも今までに何度もありました。障がい者が設備面で何も気にせずに行ける場所が増えたらいいなと思います。日本は障がい者への理解が遅れている国で、もっと改善していくべきところがたくさんあると思います。街が誰でも住みやすくなっていたり、支援が発達したりしていて、障がい者だから困っているという人がいない国もあります。全ての国にそんな未来がやってきて、誰でも住みやすい世界、「弱者」がいない世界になっていくことを、私は強く願います。

あなたは誰でも住みやすい世界をどんな世界だと思いますか。

奨励賞

未来を創る

那須町立那須中央中学校　３年
菅　野　泰　我

硝酸銀水溶液に銅のコイルを入れると、銀はゆっくりと樹木の形に結晶します。テスラコイルのプラグをつなぎ電流を流すと、教室の中に小さな雷を作ることができます。雷鳴のような、荒々しい音。何とも言えない爽快感。放電する様子はまさに稲光。光が、のたうちまわる竜のように空中を駆け巡ります。

私は科学が大好きです。学校では科学部に所属し、ロボットの制作や理科研究、環境調査に熱中しています。

学校の近くを流れる余笹川では、外来植物の調査をしています。２メートル四方に、どれくらい外来植物が生えているか数えると、200株を超えてしまいました。オオハンゴンソウやアメリカオニアザミなどの外来種が、那須にもはびこっていることが分かります。外来種が増えることで、在来種が絶滅するなど、環境に大きなダメージを与えます。

私たちがモニタリングをする２メートル四方の小さな野原は、人間が外来種を持ち込む前は、どんな植物が花を咲かせていたのでしょう。どうすればその景色を取り戻すことができるのでしょうか。科学部の活動は、身近に存在する問題に気づかせてくれます。そして、「その問題とどう向き合うか」「どう行動すべきか」を繰り返し問いかけられているように感じました。

私は将来、科学技術を学び、技術者(エンジニア)になることを目指しています。未来の技術の担い手になるのが夢です。夏休みに行われた三者面談では、「小山工業高等専門学校の電気電子創造工学科で学びます」と宣言しました。しかし、気がかりなことが一つありました。それは、「科学技術は人を幸せにするのか」という疑問です。

幼い頃は「科学技術は人を幸せにする」と信じて疑いませんでした。しかし15歳になった今、そう単純に言い切ることはできません。世界各地で紛争や混乱が起きていること、そしてその陰で、最先端の科学技術を搭載した武器が大量に製造され使われていることを知っているからです。

６月、私は那須町の広島平和記念式典中学生派遣団への参加を決めました。「科学技術が暴走したとき、何が起きたのか知らなければならない」と思ったのです。

８月５日、平和記念資料館。遺された品物が伝える原爆のむごさに圧倒されました。８月６日、広島平和記念式典は、「世界情勢を悲観するのではなく平和を願い、主体的に考えよう。連帯して行動しよう」という前向きなメッセージにあふれていました。原爆ドームを仰いだときには、余笹川の河原で感じたように、「その問題とどう向き合うか」「どう行動すべきか」と静かに問いかけられているようでした。誰もが当事者なのです。

広島から帰って、強くて深い言葉に出会いました。探し続けていた「答え」です。

「技術者である前に人間であれ」

厳しく、温かい言葉。戒め、励ましてくれる言葉。それは、小山工業高等専門学校の教育理念に掲げられた、初代の校長先生の言葉でした。「人間らしい思いやりや共感を忘れない技術者は、科学技術で人を幸福にできる」と解釈した私に勇気が湧いてきました。

６歳の頃、ゴツゴツした不格好なモーターを使い、木片で自動車を作りました。試行錯誤するのも無性に楽しく、みんなが笑顔でした。私の夢の原点はここにあります。世界中の技術者も、同じように好奇心をもって、ワクワクしながら、弛まぬ努力を重ねてきたはずです。誰かを笑顔にしたり、幸せにしたりすることを思い描きながら。

ドラえもんは未来からやってきたネコ型ロボットですが、いつか私も、一緒に生活し、家族や友人のように交流できるＡＩロボットを開発したいです。子育てや人間関係作りを応援し、心理的なケアをしてくれるロボット。いかがですか。

私たちの人間らしい温かな願いが、未来を創ります。あなたはどんな未来を願いますか。

奨励賞

蔵の街と僕の夢

栃木市立吹上中学校　３年
長　　颯　真

栃木市「蔵の街」。私が一番好きな街です。私が生まれ育った場所であり、温かく見守ってくれる家族、自分を支えてくれる友達がいるかけがえのない大切な場所です。栃木市は江戸時代から舟を使った荷物の輸送で、宿場町として栄え、「小江戸」とも呼ばれていました。今でもその頃作られた蔵がたくさん残っていることから「蔵の街」と呼ばれています。しかし今、栃木市では所有者の高齢化で管理が困難になった建物がどんどん姿を消しています。市の中心部では、戦前に建てられた建物は20年間で約45パーセント減少しているそうです。多くの人が関わり、残している蔵や建物。それを絶やしてしまうのは本当にもったいないと思います。

「どうしたら、この素晴らしいものを残していけるのだろう。」

私は、いつしかこう考えるようになっていました。それは、大好きな祖父とのある思い出がきっかけでした。

私の祖父は、栃木市で宮大工をしています。祖父は、栃木市の寺や蔵の復元など、歴史的建造物の修繕に長く携わってきました。おじいちゃん子だった私は、宮大工の棟梁として活躍する祖父の背中を見て、育ってきました。

小学生の頃、祖父に連れられて、ある蔵の修繕を見たときのことです。

「昔の人が一生懸命作ったものを、後世に残していく。建物も心も。これが宮大工の仕事だ。」

祖父が私に話してくれた言葉です。私たちはどうしても、便利で使いやすい新しい物に心が向きがちです。特に幼少期の私は、古い物に対して、関心がなく、見向きもしていなかったと思います。しかし、その時見た祖父の職人としての強い眼差しと言葉に、私は気付かされました。歴史ある建物には、建てた人、住んでいた人、守ってきた人、たくさんの人の想いが込められている。建物を残していくことで、人の想いをつなぐことができる。そんな素晴らしいことに携わることができるなんて…。宮大工が、私の夢になった瞬間でした。

今年のお正月、私はこの夢を、改めて祖父に伝えました。今まで、宮大工という夢について何となく話してはいたけれど、真剣に自分の将来について話したことはありませんでした。自分の進路を決める上で、夢のきっかけをくれた祖父の意見を聞いてみたいと思ったからです。すると、祖父は喜んでくれると同時に、厳しい顔をしてこう言いました。「颯真、大工は人が使っていく建物を作る。だから、恥ずかしくない物を残していかなければならない。まず、技術者である前にきちんとした人間であれ。」と。プライドをもって仕事に取り組んできたからこそ言える、祖父からの厳しくも温かい言葉。私は身が引き締まる思いでした。そして、「大好きな栃木市を、自分の手で次の世代につないでいくんだ。」と強く決意しました。

私が宮大工になったら何ができるだろうか。例えば、昔のまま建物を残すことはもちろん、蔵をモチーフにした建物で蔵の材木を使った模型を展示すること、小さな子どもでも関心をもてるように、蔵を組み立てられるミニチュアを配付すること…。アイディアがたくさん浮かんできます。いろんな世代の人に、栃木市に興味をもってほしい。そして、「栃木市、蔵の街はこんなにすごいんだ！」ということを伝えていける宮大工になることが私の目標です。

故郷である栃木市を自分の手で支えていくんだと思うと、私は未来が待ち遠しくてたまりません。大変なことがあるかもしれないけれど、祖父の大きな背中を越えられるその日まで、努力し続けます。笑顔であふれる蔵の街と自分の未来をつないでいくために。

奨励賞

母が教えてくれた「普通」

那須烏山市立烏山中学校　３年
滝　田　帆　香

小学校に入学して初めての授業参観。みんな少し緊張しながら、自分の家族が来るのをそわそわと待っている。一人、また一人と誰かの母親らしき人が教室に入ってきて、私の母も車椅子で現れた。教室内が一瞬静まり、そしてざわざわと騒がしくなった。「どうして車椅子なの？」と質問攻めにする友人たちに、母が答えている。私はその光景を見て、恥ずかしさと居心地の悪さを初めて感じた。いつも見ている母が、他人のように見えた。

私の母は、私が生まれる前から車椅子に乗っている。このときまで、母が車椅子に乗っていることで周りとの違いを感じたことは一度も無かった。だから、この日のことは今でも覚えている。

その後も、学校行事のたびに車椅子に乗った母は注目を浴び、周囲から助けてもらわなければならなかった。自分の母親が特別扱いをされていると感じ、嫌な気持ちになった。そしていつしか、母には学校に来てほしくないと思うようになっていた。

母はいつも明るく前向きだ。毎年、事故に遭った日を「事故記念日」などと言っている。母は交通事故で首に障がいを負った。下半身の感覚が無いため、私や妹を産むときにも苦労したそうだ。そんな苦労話をする母は、他の母親と自分が違うことを何も気にしていないように見える。私だけ気にしているのが、ばかみたいに思えてしまう。ただ、外に出ると、周囲から無遠慮に浴びせられる視線。その視線をものすごく気にしてしまう私。そんな私をよそに平然としている母。なぜ母は堂々としていられるのだろう。どうして私は恥ずかしいと思ってしまうのだろう。

そんなとき、テレビで「ふつうってなんだろう？」という番組を見た。その番組では、一人一人がもつ特性や悩みを「どうにもならないふつう」として紹介していた。そして「どうにもならないふつう」だからこそそれをどう受け入れ、乗り越えるかが大切だと訴えていた。母にとっては、車椅子に乗っていることが普通である。そして、私たち家族にとっては車椅子に乗っている母と生活していることが普通のことだ。それを普通だと感じるには時間がかかったり、理解していても受け入れられなかったりする。しかし、自分にとっての「普通」をまずは自分が受け入れることが大切なのではないだろうか。私はこの番組を見て、自分や家族の特性や悩みも、「普通」なのだと考えることができるようになった。

誰でも、他の人と違うことで不安を感じたり、自信がもてなくなったりすることがある。自分にとっての普通が他の人と違うと感じたとき、恥ずかしいと思ってしまう。しかし、「普通」は人によって違う。違いに正面から向き合って、自分の「普通」を大切にして生活することが、周りからの理解にもつながるのではないか。だから私は、今では母のことを知ってもらうために、自分から母の話をするようにしている。また、私たち家族は母が車椅子でもどんどん出かけている。誰もが自分らしく個性を発揮して生きられる世の中にするために、周りとは違う自分の「普通」を隠さずに胸を張って生活すること、そして、お互いの「普通」を受け入れる意識をもつことが大切だと思う。

今では自分の家族、母は特別なものではないと自信をもって言える。母と生活することを通して、違いを受け入れ、個性を尊重することの大切さを学ぶことができた。先日、家族で東京へ行った。駅のエレベーターが混んでいて、なかなか順番が回ってこないので、父が母を抱え、私が車椅子を持ち、妹が荷物を持ってみんなで階段を上った。家族みんなで支えているのが誇らしく、母も嬉しそうで、私は一つも恥ずかしさを感じなかった。これが私の大好きな家族だ。

奨励賞

言葉の力とその一言

小山市立豊田中学校　３年
増　田　　杏

「ありがとう」「ごめんなさい」「いただきます」「ごちそうさま」……。

普段私たちが使っている言葉には、とても大きな力があると思います。時には相手を幸せにし、時には相手の心に傷をつける。そんなことが自分の、相手の、その一言でたやすくできてしまいます。

皆さんは、言葉の力を使って今まで、どのように生きてきましたか？これからどのように生きていきたいですか？

私は、人と話すのがあまり得意ではありませんでした。自分の伝えたいことを「言葉」にして相手に伝えることが苦手だったのです。そんな自分を変えたくて、小学校４年生の時、授業中に手を挙げ、発言してみました。自分の中では「勇気を出せた！頑張れた！」と思っていました。しかし、そのとき「それ、間違ってない？」という言葉が私の耳に聞こえてきたのです。誰かが軽い気持ちで放ったその一言が私の心に深い傷をつけました。

相手に悪気がなくても、何気ないその一言が、時には相手を傷つけてしまうということを実感した瞬間でした。

しかし、言葉の持つ力は傷つけることだけではないことも、私はこの中学校生活の中で実感することができました。

話すこと、発言することが苦手なまま私は、中学校に入学しました。新しい環境で分からないことばかり。コミュニケーションが苦手な私は、うまく周囲の人たちと話すことができるのかという不安な気持ちでいっぱいでした。そんな不安を吹き飛ばすかのように、友達は私と仲良くしてくれ、先生方は私たち生徒が発言できるような雰囲気を作ってくださいました。「一緒にやろう！」「その意見いいよね！」「これはどう思う？」などの私の言葉を受け止めてくれる友達や先生方の一言、一言に私はたくさん救われました。私が「ありがとう」と言いたいのに、友達や先生方は私に、「ありがとう」と言ってくれる。だから私はその「ありがとう」に見合うだけの行動をしようと決心しました。

それから私は様々なことに挑戦することができるようになりました。私は今、中学生の仲間とともにボランティア活動をしています。無農薬で野菜を育て、小学生を招いて収穫体験を行ったり、子ども食堂に収穫した野菜を寄附したりしています。今は充実した活動ができていますが、私たちの考えが相手の方にきちんと伝わらず、うまくいかないこともありました。

自分たちの活動に自信をなくしていたときに、私をある方が「わっかとーく」に誘ってくださいました。「わっかとーく」はコミュニケーションスキルを上げる一つの手法です。ルールは三つ。相手の意見を否定しないこと。相手の目を見て話を聴くこと。話すぎないこと。自信をなくしていた私は「どうせ私の意見なんか」という思いで発言しました。ところがその場にいた全員の方から「その意見すごくいいね」と次々に声をかけてもらったのです。私はその言葉にとても安心し、少しずつ自信を取り戻せました。この活動を通して、人と話し、伝えることの大切さや楽しさ、自分の意見を持つことの大切さを知ることができました。たくさんの人がかけてくれる、その一言、一言が私に勇気や幸せを与えてくれることも知りました。この経験を多くの人と共有したいと思い、私は学校でも取り入れてほしいと提案し、９月には実現する予定です。

「人生100年時代」と呼ばれるこの世の中で私はまだ、15年という短い時間でしかこの世の中を見ていません。しかし、この15年間でたくさんのことを感じ、学び、発言してきました。その中で感じた、言葉の力。私は今、たくさんの人の言葉の力のおかげで中学校生活を楽しく過ごせています。これからは、私が言葉の力を使って、たくさんの人を笑顔にしたいです。最後に、もう一度聞きます。あなたなら、言葉の力を使ってこれからの人生をどのように生きていきたいですか？

講　　評

審査委員長　宇都宮市立国本中学校
校長　髙橋　重年

今年度の大会も、地区審査から聴衆の皆さんの前で発表することが叶い、大変うれしく思っています。本日も、普段の学校生活とは大きく異なる環境・雰囲気の中、大変緊張したと思いますが、さすがは地区審査を突破してきた皆さんですね。自分の思いを伝えようとする姿勢は熱意にあふれ、意気込みが伝わってきました。16名の発表者の皆さんの発表の内容や態度・表現力は、地区代表にふさわしいものでしたので、順位をつけなければならない審査員一同、大いに悩みました。最終的には入賞者を決定しましたが、その差はほんのわずかであり、全員の発表がすばらしかったことは疑う余地もありません。

皆さんの立派な発表の中、最優秀賞の高根沢町立北高根沢中学校の岡本智尋さんは、生徒会活動を行う中で、「多様性」という言葉の持つあいまいさに疑問を持ち、教師の言葉から「秩序」とのバランスが重要であるという考えに至りました。

優秀賞の宇都宮市立星が丘中学校の蛯澤奏太さんは、家畜のおかれている現状を知ってアニマルウェルフェアの考え方に共感し、自分たちは動物の命をいただき、生かされていることを意識するとともに、食育の重要性を強く訴えました。同じく優秀賞の鹿沼市立東中学校の引敷林杏和さんは、不登校を経験し、母親からの問いかけをきっかけに自分の内面をしっかりと見つめ、分析することを通して自身の価値観の変化を感じ、幸せに生きるための考え方を見出し、提案しました。同じく優秀賞の真岡市立山前中学校の高崎愛梨さんは、認知症カフェで働く方や周囲でサポートする方との交流を通して、人と人とのつながりの重要性に気付き、誰もが自分らしく生きていける社会の構築を目指す決意を述べました。

このほかの皆さんも、全員素晴らしい発表であり、中学生らしいみずみずしい感性で発見した課題意識を基によく考えられており、中学生がよくぞここまで考えたと審査員一同驚嘆するとともに、感動を禁じ得ませんでした。

さて先日、パリオリンピックが開催され、連日熱戦が繰り広げられました。日本人選手の活躍も記憶に新しいところです。このパリ大会ですが、史上最も「サステナブルな大会」を目指していたことはご存じでしたか？本大会では、使い捨てプラスチック使用の全面禁止を宣言し、競技会場にペットボトル飲料の持ち込みは不可としたり、スタジアムグルメでもリサイクル可能な容器を使用したりするなど、脱プラスチックを図っていたとのことです。

昨今、SDGs（持続可能な開発目標）が注目を集めています。国連が決めた世界の目標です。SDGsが目的とする「持続可能な世界」。「持続可能」とは、将来の世代のための地球環境や資源が守られ、今の状態が持続できることです。また、「開発」とは、すべての人が安心して、自分の能力を十分に発揮しながら満足して暮らせることを指します。このような世界を実現するため、世界の人々が一丸となって努力することが求められているのです。今回の発表の中にも、SDGsが示した17の目標で示された課題の解決につながる数多くの提案がなされたことを大変頼もしく感じています。

将来の予測が困難な、複雑で変化の激しい社会においては、私たち一人一人，そして社会全体が，答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われています。本日皆さんがしてくれたように、中学生の鋭い視点でたくさんの課題・矛盾を見出すとともに、今の自分が課題解決のためにできることを懸命に考える姿勢が皆に伝播していくことを願っています。

最後になりますが、本大会開催に尽力くださった関係者の皆様、生徒を温かく応援してくださった御家族の皆様、そして地区予選も含めて、お忙しい中生徒へきめ細かに御指導くださいました各学校の先生方に感謝申し上げまして、講評といたします。

司　会　者　感　想

今回、高校生をボランティアとして初めて起用しました。昨年度の県大会に出場し今春高校に進学した１年生に呼び掛けたところ、３人の高校生から申し出があり、当日の司会を担当してもらいました。それぞれの感想です。

鶴田 一遙　（栃木県立宇都宮女子高等学校１年）

県大会当日、サブホールのステージに立ったとき緊張感とともに、昨年度ここで発表した自分を思い出して懐かしさを感じました。一方で、音響や舞台照明の係の方、手話通訳の方とも打ち合わせをしたことで、昨年とはまた違った角度から大会に関わることができ新鮮でした。

昨年度は緊張のあまり自分以外の子の発表をあまり聞くことができませんでした。しかし、今年度は集中して聞くことができ、中学生のみなさんの発表で現代の社会問題について改めて見つめ直すことができました。それにより、今まで知らなかった問題や、知っていても正直向き合うことから逃げていた問題に気付くことができました。これからはこのような問題にも積極的に目を向け、自分にできることは何か考えていこうと思います。

今回、高校生ボランティアとして大会に関わるという貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。私たちの姿を見て、来年度ボランティアをやりたいと思ってくれる子がいたら嬉しいです。

宗像 文夏　（栃木県立宇都宮女子高等学校１年）

この度、「少年の主張県大会」の司会を務めさせていただいた宇都宮女子高等学校の宗像文夏です。昨年、同じ舞台に立った私が今年はボランティアという形で大会に携わることができて、とても感慨深かったです。当日は少しドキドキしていたのですが、リハーサルの時点から発表者の方々の熱意がひしひしと伝わり、身を引き締めて臨むことができました。本番、発表が始まると、それぞれの多様な視点からなる主張に心を奪われました。現在の社会が抱える課題や自身が生活を通して思ったことなどについてよく考えて、強い思いを込めて、準備をしてきたのだなと感じました。非常にハイレベルな戦いの中で、賞に選ばれた方々、本当におめでとうございます。最終的に結果は出ましたが、一人一人が最大限の力を発揮している様子はとても輝いていて、「全員に最優秀賞をあげたい」と思っていました。

最後に、発表者の皆さんに伝えたいことがあります。大舞台で自分の主張を発表するという経験は普通の中学生にはないもので、かつ難しいことです。しかし、皆さんはそれぞれの主張を成功させることができました。この経験はこれからの人生に役立つはずです。皆さんの益々の活躍を心よりお祈りしています。

横塚 彩芽　（栃木県立佐野東高等学校１年）

私は初めてボランティア活動に参加しました。学校で「ボランティアの活動は学校生活では得られない経験ができる」などと言われてはいますが、タイミングがあわず、今まで参加したことはありませんでした。

私たちボランティアの活動内容は司会でしたが、タイミングや読むスピード、聞き取りやすさなど、色々考えることがあり、家でも声に出して練習しました。本番まで緊張することもありましたが、去年発表の練習をしたことを思い出し、とても懐かしくなりました。

今回ボランティアには昨年一緒に発表した２人の子がいました。読み合わせやリハーサルなどで３回顔を合わせることがありましたが、すぐに打ち解け合うことができました。住んでいる地域や学校も違う、趣味も違う。ボランティアを一緒にしなければ話すこともなかったかもしれない。そんな子達と一緒にボランティアをした経験は、確かに学校の先生が言うように、学校ではできない貴重な経験でした。

県 大 会 の 概 要

●目　　的　県内の中学生が日常生活の中で感じていることや考えていることを発表することにより、若者としての誇りと自主性を育てるとともに、広く社会に訴えることにより、同世代の少年の意識の啓発及び青少年の健全育成に対する大人の理解と関心を深めることを目的とする。

●発表内容　発表内容は、概ね次の各号のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、少年らしい自由でユニークな発想と飾り気のない言葉でまとめたものとする。

⑴　社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
⑵　家庭、学校生活、社会（地域活動）又は身の回りや友だちとの関わりなど。
⑶　テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。

●実　施　日　令和６年９月21日（土）　　13：00開会

●会　　場　栃木県総合文化センター　サブホール

●主　　催　栃木県・栃木県教育委員会・栃木県青少年育成県民会議((公財)とちぎ未来づくり財団)
独立行政法人国立青少年教育振興機構

●共　　催　栃木県更生保護女性連盟

●後　　援　栃木県中学校長会・栃木県ＰＴＡ連合会・(一社)栃木県子ども会連合会・ＮＨＫ宇都宮放送局・(株)下野新聞社・(株)栃木放送・(株)エフエム栃木・(株)とちぎテレビ

●発　表　者　発表者は、８つの地区で下記の表により代表を選出する。

前年度の各地区応募校数	各地区代表者
15 校以下	１名
16～25 校	２名
26 校以上	３名

●審査委員　審査委員は、次の関係行政機関及び団体等から推薦のあった９名に委嘱する。

・栃木県市町村教育委員会連合会　　・栃木県中学校長会
・栃木県私立中学高等学校連合会　　・(株)下野新聞社
・(株)とちぎテレビ　　・栃木県生活文化スポーツ部県民協働推進課
・栃木県教育委員会事務局義務教育課　　・栃木県教育委員会事務局生涯学習課
・栃木県青少年育成県民会議（(公財)とちぎ未来づくり財団）

●表　彰　等
⑴　最優秀賞（栃木県知事賞）　１名　※全国大会に推薦
⑵　優 秀 賞（栃木県教育委員会教育長賞）　３名
⑶　奨 励 賞（栃木県青少年育成県民会議理事長賞）12名

●**審 査 基 準**　1　採点について

次の２分野について採点する。

⑴　論旨・内容　　⑵　論調・表現

2　採点上の観点、留意点

⑴　論旨・内容（事前審査）

ア　中学生らしい鋭い感性で、新鮮な主張であるか。

イ　新しい情報や視点があるか。

ウ　個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。

エ　提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。

オ　論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

⑵　論調・表現（当日審査）

ア　話しぶりに熱意と迫力があるか。

イ　聴衆に共感と感銘を与えているか。

ウ　説得力のある話し方であるか。

エ　落ち着いて、話していたか。

3　発表時間の過不足による減点

持ち時間５分に対して１分以上の過不足があった場合は、「論調・表現」から減点する。

（補足）

・事前の作文による審査を「論旨・内容」の審査とし､当日の審査は、原則として「論調・表現」とする。

・入賞者は審査委員会の協議により決定する。

第47回少年の主張発表県大会審査委員（敬称略）

栃木県市町村教育委員会連合会市教育長部会副会長（宇都宮市教育委員会教育長）	小堀　茂雄
栃木県中学校長会事務局次長（宇都宮市立国本中学校長）	髙橋　重年
栃木県私立中学高等学校連合会理事（白鷗大学足利中学校長）	髙久　哲史
(株)下野新聞社報道センター長	中野　　勲
(株)とちぎテレビ専務取締役	坂本　裕一
栃木県生活文化スポーツ部次長兼県民協働推進課長	篠崎　岳彦
栃木県教育委員会事務局義務教育課副主幹	高橋　功昌
栃木県教育委員会事務局生涯学習課主幹	吉田　正道
(公財)とちぎ未来づくり財団常務理事兼事務局長	野中　正知

第47回栃木県少年の主張発表大会　実施状況

○地区大会：県内を青少年育成連絡協議会ごとに８地区に分け、地区内に所在する各中学校が校内発表会等を経て選出した学校代表者（各校１名）により実施した。

地　区	日　時	会　　場	応募者	発表者	学　年　内　訳		
					１年	２年	３年
河　宇	８月23日㈮ 10：00～	パルティ とちぎ男女共同参画センター	1,970	30	0	2	28
上都賀	９月９日㈪ 12：00～	日光市 ニコニコ本陣	2,620	23	0	1	22
芳　賀	８月22日㈭ 13：00～	真岡市 市民会館	1,306	16	0	0	16
下都賀	８月22日㈭ 12：10～	壬生町 城址公園ホール	3,321	33	0	0	33
那　須	９月５日㈭ 11：50～	大田原市 ピアートホール	676	21	1	0	20
安　足	９月３日㈭ 12：30～	佐野市 葛生あくとプラザ	1,910	22	0	0	22
塩　谷	８月30日㈮ 13：50～	栃木県庁 塩谷庁舎	667	8	0	0	8
南那須	９月２日㈪ 14：00～	那珂川町 小川総合福祉センター	96	4	0	1	3
合　　計			12,566	157	1	4	152

○県大会：各地区大会において選出された地区代表者により実施した。

日　時	会　場	入場者	発表者	学　年　内　訳		
				１年	２年	３年
９月21日㈯ 13：00～	栃木県総合文化センター サブホール	238	16	0	0	16

これまでの県大会

回数	開催日	会　　場	発表者数	地区大会	
				参加校数	応募者数
第１回	昭和53年11月28日	宇都宮市立旭中学校	16		
第２回	昭和54年10月４日	宇都宮市立陽北中学校	16	158	
第３回	昭和55年７月29日	栃木会館　小ホール	16		
第４回	昭和56年９月22日	宇都宮市立旭中学校	16	164	
第５回	昭和57年10月１日	宇都宮市立旭中学校	16	169	
第６回	昭和58年10月４日	宇都宮市立陽西中学校	16	168	
第７回	昭和59年10月４日	宇都宮市立陽北中学校	16	171	
第８回	昭和60年10月３日	宇都宮市立陽西中学校	16	171	
第９回	昭和61年９月30日	宇都宮市立陽北中学校	16	173	
第10回	昭和62年９月29日	宇都宮市立陽西中学校	15	176	
第11回	昭和63年９月29日	宇都宮市立旭中学校	16	175	
第12回	平成元年９月27日	宇都宮市立陽北中学校	16	179	
第13回	平成２年９月26日	宇都宮市立陽西中学校	16	179	
第14回	平成３年９月26日	宇都宮市立旭中学校	16	181	
第15回	平成４年９月25日	宇都宮市立陽西中学校	16	182	
第16回	平成５年９月21日	宇都宮市立陽北中学校	16	186	
第17回	平成６年９月27日	宇都宮市立旭中学校	16	185	
第18回	平成７年９月26日	宇都宮市立陽西中学校	16		
第19回	平成８年10月１日	宇都宮市立陽北中学校	16	183	
第20回	平成９年10月30日	宇都宮市立旭中学校	16	185	
第21回	平成10年９月25日	宇都宮市立陽西中学校	16	183	
第22回	平成11年９月28日	宇都宮市立陽北中学校	16	182	
第23回	平成12年10月３日	宇都宮市立旭中学校	16	183	
第24回	平成13年10月２日	栃木県教育会館　大ホール	16	183	
第25回	平成14年９月28日	とちぎ健康の森　講堂	16	182	
第26回	平成15年９月20日	とちぎ青少年センター　多目的ホール	16	179	32,356
第27回	平成16年９月18日	とちぎ青少年センター　多目的ホール	16	178	24,978
第28回	平成17年９月17日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	16	173	26,872
第29回	平成18年９月16日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	18	174	24,788
第30回	平成19年９月22日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	17	172	21,497
第31回	平成20年９月20日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	18	172	21,160
第32回	平成21年９月18日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	18	173	22,013
第33回	平成22年９月18日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	18	166	19,909
第34回	平成23年９月17日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	17	169	20,961
第35回	平成24年９月29日	とちぎ男女共同参画センター　パルティホール	17	167	19,730
第36回	平成25年９月21日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	168	17,911
第37回	平成26年９月27日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	170	19,556
第38回	平成27年９月19日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	170	19,356
第39回	平成28年９月24日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	170	19,235
第40回	平成29年９月23日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	167	18,966
第41回	平成30年９月22日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	165	16,705
第42回	令和元年９月21日	宇都宮市文化会館　小ホール	16	165	15,549
第43回	令和２年９月19日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	161	12,140
第44回	令和３年９月18日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	162	13,542
第45回	令和４年９月17日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	161	12,337
第46回	令和５年９月16日	栃木県総合文化センター　サブホール	16	159	12,323

県大会歴代最優秀賞

回数	中学校	学年	氏　名	全国大会の記録
1	田沼町立西中学校	3年	山　本　美奈子	
2	塩谷町立大宮中学校	3年	小　堀　芳　広	第1回全国大会　総理府総務庁長官賞受賞
3	宇都宮市立旭中学校	3年	田　村　宏　治	
4	栃木県立盲学校中等部	1年	潮　田　祐　子	
5	佐野市立城東中学校	3年	松　本　由紀子	第4回全国大会　内閣総理大臣賞受賞
6	宇都宮市立星が丘中学校	3年	福　田　寿美江	第5回全国大会　総理府総務庁長官賞受賞
7	真岡市立真岡中学校	3年	中　村　　博	
8	足利市立第二中学校	3年	鈴　木　博　康	
9	佐野市立北中学校	3年	堤　　裕美子	
10	烏山町立境中学校	3年	小　室　淳　子	
11	黒磯市立厚崎中学校	3年	市　川　真　紀	
12	氏家町立氏家中学校	3年	小　野　和　美	
13	茂木町立須藤中学校	3年	生　井　めぐみ	
14	今市市立今市中学校	3年	小　林　知　子	
15	足利学園中学校	3年	永　島　聖　子	
16	矢板市立片岡中学校	3年	小　林　俊　雅	
17	作新学院中等部	3年	高　内　めぐみ	第16回全国大会　総務庁長官賞受賞
18	矢板市立矢板中学校	3年	大　串　美　雪	
19	氏家町立氏家中学校	3年	平　石　友　紀	
20	南河内町立第二中学校	3年	金　清　舞　子	
21	黒磯市立高林中学校	3年	飯　田　まりさ	
22	西那須野町立西那須野中学校	3年	松　林　朝　子	第21回全国大会　内閣総理大臣賞受賞
23	真岡市立中村中学校	3年	深　野　志おり	
24	宇都宮市立星が丘中学校	3年	趙　　韓　知	
25	栃木市立東陽中学校	3年	川　野　裕　佳	
26	今市市立東原中学校	3年	斎　藤　静　香	
27	真岡市立真岡中学校	3年	菱　沼　優　希	第26回全国大会　審査委員会特別賞受賞
28	馬頭町立馬頭東中学校	3年	佐　藤　雅　俊	
29	日光市立三依中学校	2年	本　澤　理　沙	第28回全国大会　青少年育成国民会議会長奨励賞受賞
30	那珂川町立馬頭中学校	3年	小　堀　美　香	
31	佐野市立西中学校	3年	上　岡　あかり	
32	上三川町立明治中学校	3年	菅　又　拓　実	
33	茂木町立中川中学校	3年	石　河　智　浩	
34	那須町立那須中学校	3年	高　久　瑠　光	第33回全国大会　奨励賞受賞
35	芳賀町立芳賀中学校	3年	塘　内　エリカ	
36	那須烏山市立烏山中学校	3年	須　山　優　菜	
37	栃木市立栃木西中学校	3年	カリニョ カーロ マリオン	第36回全国大会　奨励賞受賞
38	さくら市立喜連川中学校	3年	石　塚　千　夏	
39	さくら市立喜連川中学校	3年	髙　瀬　　樹	第38回全国大会　奨励賞受賞
40	鹿沼市立西中学校	3年	上吉原　由　佳	
41	矢板市立泉中学校	3年	神　立　千　星	
42	下野市立南河内第二中学校	3年	星　　優莉香	
43	大田原市立金田北中学校	3年	荒　井　千恵理	第42回全国大会 文部科学大臣賞
44	鹿沼市立東中学校	3年	石　田　真　愛	
45	大田原市立親園中学校	3年	阿久津　結　花	第44回全国大会　国立青少年教育振興機構理事長賞
46	宇都宮市立宝木中学校	3年	星　野　みおり	

〔参　考〕第46回少年の主張全国大会　～わたしの主張２０２４～
令和６年11月24日（日）13：00～　国立オリンピック記念青少年総合センター

全国大会内閣総理大臣賞

「一隅を照らす」

宮城県
栗原市立栗原南中学校　3年
ケイバージーバ

「一隅を照らす」という言葉を知っていますか？この言葉は、パキスタンとアフガニスタンで三十五年もの間、病気の人達や貧しい人達のために医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学四年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて……。」「とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。

「私も中村さんのようになりたい……。」

「困っている人達を救いたい。」

自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えることが多くなりました。

私は、アフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、四年生からは、日本で生活しています。

六年前に日本に来たときは、家族みんな日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていた勉強が、日本の小学校では、全然ついていくことができず……「日本語が分からないから仕方がないか。」と思う自分と「悔しい。何とか分かるようになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃、始まった中学校生活。

待っていたのは、辛い日々……。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったので、ストレスが重なり、

「もう嫌だ。死んでしまいたい……。」

そう思うことが何度もありました。どうしようもなくて泣いたこともあります。

そんな絶望的だった私を助けてくれたのは、友達や先生方でした。周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親も、いつも応援してくれました。

「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。

アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで中村さんは、「一隅を照らす」「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として多くの苦しむ人達を助けてきたのです。

私の将来の夢は、医師です。現在のアフガニスタンでは、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け、就職する機会が奪われています。私の親戚も女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」と、いつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達は、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」と言って毎日泣いています。

日本に来て、辛かったこともありましたが、今は、日本で勉強ができていることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思っています。

家族と話すパシュート語、ウルドゥ話、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語。私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって、母国のアフガニスタンで病気の人達や貧しい人達を助けてあげたいです。私が働くことが、アフガニスタンの女性達の希望につながる。そう信じています。

人間は一人では生きていけません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」パシュート語で（ یو کونج روښانه کړئ ）。まずは、今の自分にできることを、やり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。

済生会宇都宮病院看護専門学校

https://saimiya-kango.ac.jp/

（栃木県済生会）　宇都宮病院　看護専門学校　訪問看護ステーションほっと　宇都宮乳児院　高齢者ケアセンター

あなたの大学進学を応援します。

給付型奨学金

公益財団法人飯塚毅育英会

■大学奨学生の応募資格は栃木県内の高校3年生
■奨学金は月額57,000円（年額68万4千円）、4年間給付、返還不要

公益財団法人飯塚毅育英会　〒320-8644　宇都宮市鶴田町1758番地（株）TKC内
TEL：028-649-2121　URL：https://www.iizuka-takeshi-ikuei.or.jp/

当育英会の創立者飯塚毅氏は株式会社ＴＫＣ（東証プライム市場:証券コード9746）の創業者です。
株式会社ＴＫＣの配当金が奨学金の原資です。

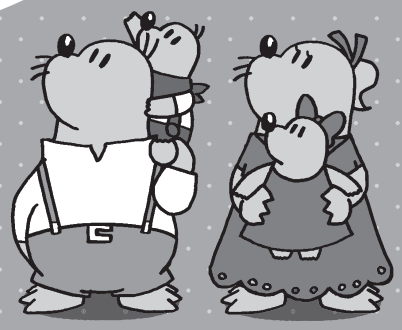
株式会社TKCは、大卒者に加えて、高校新卒者をシステムエンジニアとして毎年15名～20名採用しています。（呼称：クラウドエンジニア）
TKCには大学卒業資格（学士）の取得を会社が支援する制度があり、クラウドエンジニアは働きながら大学にも通えます。大学の費用は会社が全額負担しています。

働く&学ぶ
可能性、無限大

TKC

https://www.tkc.jp/company/

応援します
あなたのストーリー
あなたのミ・ラ・イ



あしぎん公式
Instagram
X
やってます!

足利銀行

国際標準規格 ISO27001・9001・14001 認証取得

−事業内容−

- ビル総合管理、総合メンテナンス
- 一般・産業廃棄物収集運搬業（登録）
- 警備業（登録）
- 業務請負（学校給食、受付・宿直業務他）
- 保存庫「快蔵くん」製造販売
- 鮮度維持機「いきいきくん」製造販売
- ＩＴ事業（福祉・医療機関業務支援）
- 福祉サービス第三者評価事業
- 指定管理者受託業務（図書館、他）

ビル総合管理
株式会社　大高商事

本　社　〒320-0075　宇都宮市宝木本町1474番地5
TEL　028-665-1911　FAX　028-665-1919
https://daikoh.inc

支　店　東京・小山・仙台
営業所　福島・群馬・佐野・真岡・今市・県北・県南・小山

社会医療法人中山会
宇都宮記念病院
UTSUNOMIYA MEMORIAL HOSPITAL
2 次救急輪番病院 24 時間 365 日無休
宇都宮記念部病院　人間ドック・健康診断
TEL（028）622-1991　ナビダイヤル 0570-077831
〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り 1-3-16
鷲谷記念病院 TEL（028）648-3851　FAX (028) 648-0222
〒321-0346 栃木県宇都宮市下荒針町３６１６
介護付き有料老人ホーム 宝木荘 TEL(028) 666-7606
〒320-0061 栃木県宇都宮市宝木町 2-1090-27

for the SMILE
街と人を、もっと笑顔に。
KSK環境整備株式会社
〒321-0973 栃木県宇都宮市岩曽町1333 TEL.028-664-3711㈹ FAX.028-663-4011
https://www.kankyouseibi.co.jp

作新学院大学
作新学院大学女子短期大学部
SAKUSHIN GAKUIN UNIVERSITY
作新学院大学　経営学部（経営学科・ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科）
人間文化学部（発達教育学科・心理ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科）
大学院　経営学研究科 博士(前期・後期)課程・心理学研究科 修士課程
作新学院大学女子短期大学部　幼児教育科

栃木県青少年育成県民会議では賛助会員を募集しています

心豊かでたくましいとちぎの青少年を育むために是非お力添えをお願いいたします。

賛助会費	団体（1口）	１０，０００円
	個人（1口）	３，０００円

加入いただける場合は、当財団ホームページから申込書をダウンロードしてお申込みください。

足利大学附属高等学校

HP　instagram

自分の「好き」を積み上げよう！

普通科／工業科／自動車科／情報処理科

～ 穏 健 質 実 な る 女 子 教 育 ～

普通科（2 年次からのコース編成）

アドバンス進学・こども教育進学・ヒューマンケア進学

足利短期大学附属高等学校

2025 年 4 月より足利大学附属女子高等学校へと

校名変更いたします（構想中）

～「夢」へのチャレンジ～Catch Your Dream

「夢から始まる未来が、ここにある」

宇都宮短期大学附属高等学校

（普通科・生活クリエイト科・情報デザイン科・調理科・音楽科）

〒320-8585

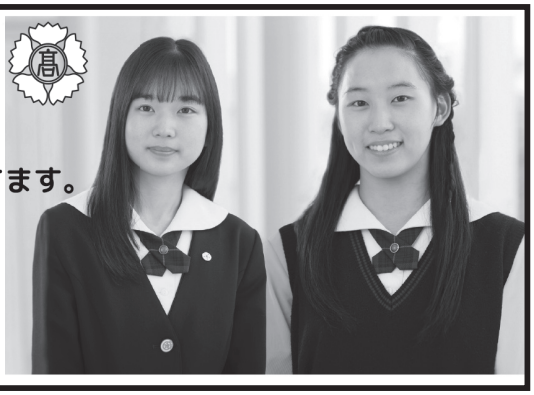
栃木県宇都宮市睦町1-35　028-634-4161

宇都宮文星女子高等学校

未来を つくる、いきる ちから。

ICT活用と探究学習を通じて自律力・協働力・創造力を育てます。

秀英特進科・普通科・総合ビジネス科



未来をこの手に 確かにつかもう！

2024 年　東大2名、阪大1名、早稲田10名、慶応3名、上智4名
東京理科4名、ICU2名、GMARCH32名合格！
ハッピー・サイエンス・ユニバーシティ53名合格！

チアダンス部　ダンスドリル選手権 全国大会総合３位！世界大会出場決定！
吹奏楽部　栃木県吹奏楽コンクール 金賞・県代表！東関東大会 銀賞！
美術部　防災ポスターコンクール防災担当大臣賞！全国総合文化祭出場！

徳ある英才の創造　きめ細やかな進学指導

幸福の科学学園
中学校・高等学校

栃木県那須郡那須町梁瀬 487-1
https://happy-science.ac.jp/
TEL 0287-75-7777
FAX 0287-75-7779

君の本気が国栃にある

「Enjoy your youth」

國學院大學栃木高等学校

【普通科】特別選抜 S／特別選抜／選抜／文理

〒328-8588 栃木県栃木市平井町 608 番 TEL0282-22-5511(代表)

「作新民。」その“人間力”で、世界を変える、未来をつくる！

作 新 学 院

高等学校（トップ英進・英進部・総合進学部・情報科学部）／中等部／小学部／幼稚園

日本大学 425 名合格（令和６年４月１日）

- 国公立大学 47 名合格 東北大、山形大(医)、筑波大学 等
- 日本大学以外の難関私立大学等 253 名合格
  早稲田大、慶應義塾大、GMARCH 上理 等

現役合格率 98.3%

～夢を叶える“新”クラス制度～

1．「やりたいこと」を追求するクラス選択制
2．難関大学の受験に対応する充実したカリキュラム
3．付属高校の優位性を活かした日本大学への推薦入学

佐野日本大学高等学校

きっときみを輝かせる 〒327-0501 栃木県佐野市葛生東 2-8-3

青藍泰斗高等学校

普 通 科 総合ビジネス科 総 合 生 活 科

TEL 0283-86-2511
E-mail info@seirantaito.ed.jp
URL http://www.seirantaito.ed.jp

青藍泰斗高等学校公式

部活動インスタグラム

来年度より普通科に3つのコースが新設されます

普通科 自己実現コース（進学対策 就職支援）
学業と部活動の両立もでき、自らの目標に向かって可能性を広げるコース

普通科 特別進学コース（進学対策 就職支援）
少数精鋭で国公立大学合格を目指し、レベルの高い学習に取り組むコース

普通科 自己探求コース（安心対策 就職支援）
「学校に行きたい」「全日制の高校を卒業したい」将来を切り拓いていくコース

SEIRANTAITO

PLUS ULTRA

さらに向こうへ

普通科 特別進学コース S クラス / 特別進学コース / 進学コース / 総合進学コース

HP はこちらから

白鷗大学足利高等学校

〒326-0054 栃木県足利市伊勢両町 3-2 0284-41-0890

ONE STEP BEYOND

人生を強くする文星

文星芸術大学附属高等学校

〒320−0865 栃木県宇都宮市睦町１−４ TEL 028−636−8585 FAX 028−633−2321 www.bunsei.ed.jp

～ 未来を変える、星になる。～

星の杜は21世紀型教育を実践し、「チェンジメーカー」を育成します。

星の杜中学校 ✦ 高等学校

〒321-3233
栃木県宇都宮市上籠谷町3776番地
入試課/マーケティングチーム 028-667-0700

HPはコチラ

青少年の健全育成”と“県民文化の振興”を目指します

公益財団法人 とちぎ未来づくり財団

「とちぎ未来づくり財団」は、次の施設の管理運営を行っています。

栃木県総合文化センター
栃木県立とちぎ海浜自然の家
栃木県埋蔵文化センター
栃木県子ども総合科学館
栃木県立なす高原自然の家

〒320-8530 栃木県宇都宮市本町1番8号（栃木県総合文化センター内）
電話：028-643-1011 FAX：028-650-5284
URL：https://www.tmf.or.jp E-mail：tmf@tmf.or.jp

（注）栃木県私立中学高等学校連合会加盟校につきましては、五十音順に掲載しています。

令和６年度　第47回栃木県少年の主張発表県大会記念文集

発　行　日　令和７年１月20日
編集・発行　栃木県青少年育成県民会議
（公益財団法人とちぎ未来づくり財団 青少年育成課）
〒320-8530 宇都宮市本町1-8 栃木県総合文化センター内
TEL028-643-1005　FAX028-650-5284

毎月第3日曜日は

ふれあい育む

家庭の日

後　援　　栃木県中学校長会　栃木県ＰＴＡ連合会　（一社）栃木県子ども会連合会
NHK宇都宮放送局　㈱下野新聞社　㈱栃木放送　㈱エフエム栃木
㈱とちぎテレビ